

R I 検査の不安への一援助

R I 治療棟 発表者 赤 沼 幸

斉 藤 ゆ多子・伊 藤 浦 子・佐々木 とくよ

I はじめに

現代医学に於いて診断、治療の目的で放射線を利用する事は必要欠く事のできないものになってきました。

医療上の放射線は自然放射線と異なり、全集団が一樣に被曝するのではなく、その一部のみがしかも検査、治療の部位によって、それぞれ異った線量を受けるのでその影響を直接比較する事はできません。

「R I は放射能が出るから怖い」とよく言われます。しかしR I の利用検査は疾病の診断上、重要な位置を保っています。検査をする患者さんにとって無駄な放射線被曝を避けて安心して受けられるように配慮する事が不安の除去への大きな課題だと思います。

R I って何なのか？ 診断上使用する事を疑問に、又不安に思っている患者さんにとって安全に検査が済むようにと思いアンケートをとって考えてみました。

II 調査方法

期間 昭和52年5月1日から昭和52年10月31日まで

対象 放射線外来へ紹介されてR I 検査をした 110 名

方法 アンケートに依る

検査の待ち時間を利用する

III アンケートの内容と結果

あなたは「R I 検査」と聞いた時、どのように思いましたか？

私達はみなさんの不安が少しでも和らぐように、又、これから私達の介助に役立てたいと思いいあなたの御意見を参考にしたいと思います。よろしくお願い致します。

① R I で検査をする部位を御存知ですか？

知っている 47%

知らない 53%

② 知っている人は誰に聞きましたか？

医師 19% 看護婦 23% 家人・友人 28% 依頼書のみて 30%

③ 検査の方法は次のどれだと思いますか？

写真を撮る 2% 注射をする 28% 薬を飲む 5%

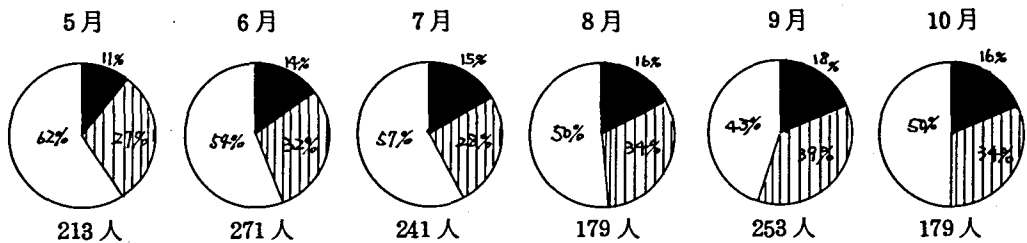
わからないが医師・看護婦の言う事を聞く 65%

- ④ 放射性同位元素 (R I) について御存知ですか？
 知っている 11% 知らない 89%
- ⑤ 放射線検査をして身体について心配ですか？
 心配になる 25% 心配していない 75%
- ⑥ 検査中、不安でしたか？
 不安だった 71% 何ともない 29%
- ⑦ 不安に思った場合、次のどれですか？
 検査結果 25% 放射線の影響 15% 機械が落ちて来ないかと 10%
 何もかも不安 30%
- ⑧ 検査に来て待ち時間はどれ位でしたか？
 30分以内 68% 30分～1時間 30% 1時間～2時間 2%
- ⑨ 検査時間は思ったより
 長く感じた 34% 余り気にならなかった 66%
- 御協力ありがとうございました。

Ⅳ 経 過

調査期間中の患者数

- 白 入院患者
 斜線 外来患者
 黒 外部入院中、放科外来を經由して検査した患者



R Iへ検査に来ても体のどこを検査するのかさえも知らずに来ている人が50%強になった。知っていると答えた人も臓器のみ、「腎です。」とか「肝の検査です。」又、「持って来た依頼書に○印がしてあったから肝だと思います。」という位の知識で来ている。他の病院へ入院して検査のためにR Iへ訪れた人が調査期間中11%～18%。

検査の依頼書には、姓名、年令、性別、検査部位が記されているだけなので患者さんの状態を速やかに把握して検査が苦痛なく済むように援助する。

坐って待つのに耐えられないと思われる患者さんの待ち時間は予備ベッドで休んでいるが、長時

間かかる検査が(全身シンチスキャン等)が前に来てしまった時のいらいらや精神的緊張と不安を少しでも和らぐようにつとめる。

検査の事は医師、又は看護婦に聞いて来るのが一番良いと思うが他の病院からの場合は付き添いの方がいるために本人には直接説明されていないのだと思う。

「医師から何日に検査しますと言われました。それだけで納得行くような説明が聞かれました」という人とか「前に検査をした人から聞きました」とか「R Iへ行って下さいとだけ言われました」と言って来る。

検査内容の説明は医師から聞いて欲しいと思います。ただ「何日に肝の検査ですよ」だけでなくもう少し説明していただいてもあたら検査への不安は軽減されると思う。

検査方法については何もわからないが医師、看護婦の言う事を聞くとの答えが65%と多い事から看護婦の言動に責任を感じる。

放射線を注射する事は、漠然とわかっている人が28%いて、その後はどうするかわからない。「静脈注射をして検査部位に薬が集った時に写真を撮ります。数分間動かないで寝ていて下さい。」と注射をする時に説明している。

放射性同位元素(R I)を少しでも知っているとの答えが22%。その中には「ヨードの事でしょう?」とか「X線写真を撮るのと同じでしょう?」又「放射能が出るものですね」と言っている。

放射線検査をして身体についての心配は?

心配していないが75%であり、「先生にまかせているから心配していません。」「大学病院で検査するのでですから心配していません。」と又、「いくら心配してもどうしようもありませんから。」等々結局、何の検査かわからず何をされるのか知らない患者さんにとって医師、技師、看護婦のするにまかせている人の多い事に気付いた。

検査中、不安を感じたと答えた人が71%で患者さんは常に検査結果を何と診断されるのかと思う不安は事実であり、検査中もその気持で一杯だと思う。何もかも不安であった30%。機械そのものが不安であり、放射線という言葉の恐しさもあり、疾病に悩みわざわざ検査のために来院して結果を待つ気分、それは大きな不安へとつながって、「結果は今日すぐわかりますか?」とよく検査終了直後に質問される。紹介医から主持医へ返書の行く事を説明する。検査が終ってほっとした気分と共に病気への不安が募るのではないかと推察する。

放射線の影響についての不安は15%

「注射して放射線が体に入っても悪い影響はありませんか?」とか「この薬は害になりませんか?」とよく聞かれる。会話の中に常に質問があり、どんなに不安なのかを知らされる。臓器の検査によって異なるが200マイクロキュリーから20ミリキュリーの放射線量が体内に入るが、半減期が短い事と体に危害になる程の量でない事をよく話し納得していただく。

機械が落ちて来たらどうしようと心配になった人が10%。他の病院から紹介されて来院している人に多く、大学病院で検査するという緊張と不安に加えて検査室の機械と音の大きさ、設備のものしさが不安を大きくしている事は事実だ。

又、検査に来ての待ち時間は同じ10分でも長く感じると思う。出来る限り機械、検査部位に応じて医師、技術と共にコミュニケーションを密にして待たせないように配慮している。

検査時間が余り気にならなかったとの答えが66%、あった事は軽症者に多く、仰臥位で数分間静かに寝ている事がとても苦痛な人も少数ながらいる事を見のがす事は出来ない。

V 考 察

以上R Iについて知っている人は意外に少なく、又、余り気にとめていない人の多い事が調査して知る事が出来た。

質問し愁訴した患者さんに対しては特別恐怖心を抱かないように納得行く迄説明する必要性を感じた。数多いこの人達の「知らない事への不安」を見のがしてはいけないと思っている。

臨床検査をするにあたり患者さんにその内容が納得され、何のためにどのような方法でと説明されていたらと思いました。

VI おわりに

検査にあたって個々の患者さんの症例はあげにくく、その場限りの援助行為をするしかできませんでしたが、患者さんに余分な被曝を避けるため、又、検査を有益、有効にするために日々の観察と細心の注意を心がけてゆきたいと思います。

調査結果の個々の項目についてももっと掘り下げて検討しなければいけない事を反省しています。

アンケートの集計に終わった感じで問題点の今後への展開が十分できませんでしたが、理解についてひとつの手がかりとして患者さんの立場に立って考え、よい看護をめざしてつとめてゆくつもりです。

最後にこの発表にあたり、御協力いただいた皆様に深く感謝して終らせて頂きます。

放射性同位原素とは

陽子の数によって原子番号が決るが中性子の組み合わせによって様々の原子核が存在する。そのあるものは安定同位原素として永久不変であるが、他の組み合わせでは、不安定で絶えず余分のエネルギー（放射線）を放出して安定に変わろうとする傾向がみられる。放射線を出すので、このような同位原素を放射性同位原素と呼んでいる。R Iの特徴は、放射線（ α 、 β 、 γ 線など）を出しながら一定の速度で壊れて行く（半減期）点にあり、化学的性質は普通の原素と全く同様に、生体内では同様に代謝されて行くので、この放射線が目印となって代謝の研究、疾病の診断に広く利用される。あるいは身体内の特定の臓器組織に集積した放射性同位原素からの放射線が各種疾病の検査治療に役立っている。

R I 検 査							
検査内容	使用 R I	半減期	投与方法	実施日	検査時間	所 要 間	処置・注意事項
脳シンチ	パーテクネート	時間 6.05	静注	2週毎 月曜日	直後15分 120分	30分 ×3	過塩素酸カリ200 μg経口(検査前30 分～1時間)
肺シンチ	^{99m}Tc -MAA	時間 6.05	静注	水	直後	20分	
腎シンチ	^{99m}Tc -DMSA他	時間 6.05	静注	月・水	直後 1時間後	数分	検査前の排尿
腫瘍シンチ	^{67}Ga クエン酸カリウム	時間 77.9	静注	月	1～2日後	30分～ 1時間	
脳槽シンチ	^{111}In -DTPA	日 2.81	腰椎 穿刺	水	3時間・6 時間・24時 間・48時間	30分	ルンバル後 3時間安静
脾シンチ	^{75}Se セレノメチオン	日 120.4	静注	水	直後から 60分以内	30分	
R I アンジオ	パーテクネート	時間 6.05	静注	月	直後	数分	
甲状腺シンチ	^{131}I カプセル ^{99m}Tc	日 8.05 時間 6.05	経口 静注	月・水投与 火・木測定	24時間後 30分後	10分	前1週間ヨード制 限
甲状腺 ^{131}I 摂取率	^{131}I カプセル	日 8.05	経口	月・水投与 火・木測定	4時間後 24時間後	数分	前1週間ヨード制 限
レノグラム	^{131}I ヒプラン	日 8.05	静注	泌尿器月 他火	直後	15分	検査前の排尿
骨シンチ	^{99m}Tc ピロリン酸他	時間 6.05	静注	月・水	2時間後	1時間	骨盤部検査の際は 検査前で必ず排尿
肝シンチ	^{99m}Tc スズコロイド	時間 6.05	静注	月・水・金	20分後	30分	
副腎シンチ	^{131}I アドステロール	日 8.05	静注	月・水	7～8日後	20分	甲状腺被曝防除の ためルゴール1週 間投与 当日高圧 腸